

平成28年度 第1回大山崎町社会教育委員会議録

- ◇ 日 時 平成28年5月19日(木) 午前9時30分～午前11時40分
- ◇ 場 所 大山崎町役場 3階 中会議室
- ◇ 出席者 19名
  - 出席委員(8名)  
上田副委員長、井幡委員、島委員、森かおる委員、山崎委員、綾木委員  
西村委員、森一眞委員
  - 事務局(11名)  
教育長、教育次長、生涯学習課長、学校教育課長、文化芸術係リーダー  
生涯学習・スポーツ振興係リーダー、体育館長、歴史資料館長、事務局員
- ◇ 公開の可否 公開
- ◇ 傍聴者 なし
- ◇ 会議の成立条件  
半数以上の委員の出席により本日の会議は成立(欠席1名)

【概 要】

- ◇ 開 会
- ◇ 教育長あいさつ
  - 公民館施設の今後の見通しは、「公共施設等総合管理計画」に則って対応する。
  - 全国町村教育長会の総会並びに研究大会が東京で開催され、岩手県大槌町教育委員会の教育長の実践報告があった。その内容は、以下のようなものであった。
    - ・ 建物や遺跡は津波に飲み込まれたが、古くから伝わる伝統や文化、知恵までは飲み込まれない。
    - ・ 教育(ふるさと学習)として、地域ぐるみで子どもを育てる風土の大切さを感じた。幼児教育から学校教育、成人教育をつなぐ社会教育を進めなければならない。
  - 一つ一つをしっかりと積み上げることが「まなびの町、大山崎」として「次世代の学校、地域」の創生に繋がると思うのでよろしくお願ひしたい。
- ◇ 副委員長あいさつ
  - 小学6年生の頃に阿蘇山から流れる白川が大氾濫し、学校が3ヶ月間休校になった。  
先ほどの話で学校が開かれているということを知り安心した。
  - 今回のような被害のことを知ると、社会教育委員としてどんなことができるのかという思いになった。
  - 本日は案件も多いのでよろしくお願ひしたい。
- ◇ 平成28年度社会教育委員委嘱
  - ◆ 教育長より委嘱状を交付
  
  - ◆ 新委員挨拶
    - 退職して10年がたち、趣味である野鳥を見る活動などを行っている。

- 大山崎町に住んで30年以上になるが、近所の方を知る機会が少なかった。家にいるようになってから徐々に近所の方が分かってきた。
- 皆様方と一緒に大山崎町のために微力ながら頑張っていきたい。

◇ 議事

- (1) 大山崎町社会教育委員長・副委員長の選出について
- (2) 乙訓社会教育員等連絡協議会副会長・理事（2名）・監事（1名）の選出について

○ 事務局

平成28年度の本町の新役員体制について、自薦他薦を問わずご審議頂きたい。また、乙訓社会教育委員等連絡協議会（以下「乙社教」という）の役員は、輪番で大山崎町が副会長を1名、理事を2名、監事を1名担うことになっている。

さらに、京都府社会教育委員連絡協議会、近畿社会教育委員連絡協議会についても輪番制で役員選出の依頼を受けている。

皆様の任期は平成27・28年度の2年間であり、事務局としては、平成27年度の体制を踏襲し、新しい委員長、副委員長の審議をいただきたい。

【質疑応答】

- 委員一 継続的なことも必要であり、これまでの調整も必要になってくるので、現在の副委員長が委員長を担っていただくのがいい。
- 委員一 それでよい。よろしくお願ひしたい。
- 委員一 現副委員長は10年以上社会教育委員として活動され、ボランティア活動など社会教育に大きな役割を果たしてこられたのでお願ひしたい。
- 副委員長一 私にとのことだが、事務局はいかがか。
- 事務局 各委員からの意見を踏まえ、委員長については上田現副委員長、不在になる副委員長には森一眞委員に、また、乙社教の役員については副会長を上田現副委員長、理事を森一眞委員と島委員、監事を井幡委員にお願ひしたい。

⇒議題（1）、（2）については次の通り承認された。

◆ 平成28年度役員

- 町社教
 

委員長	上田 幸代	現副委員長
副委員長	森 一眞	委員
- 乙社教
 

副会長	上田 幸代	現副委員長〈新任〉
理事	島 照子	委員〈留任〉
理事	森 一眞	委員〈新任〉
監事	井幡 和幸	委員〈留任〉

○委員長一就任の挨拶

委員長としての資質も素質も自信も、三拍子そろってないが、皆さんに支えられて務めたいと思う。皆さんのご協力をよろしくお願ひしたい。

○副委員長一就任の挨拶

子どもたちや家庭を支える地域があってこそ子どもたちが健全に育っていくのだと思う。子どもたちが住んでいる地域も親も含めた中でどんなことができるか微力ながら一緒に考えていきたいのでどうかよろしくお願ひしたい。

(3) 平成27年度社会教育委員会議関係事業報告について

事務局一資料に沿って説明

【質疑応答】

○委員一 近畿公民館大会が長岡京市で開催されると聞いたので申し込みをしたが、すでに締め切りが過ぎていた。近くで大きな大会がある時は知らせてほしい。

⇒議題(3)については承認された。

(4) 平成27年度生涯学習課関係事業報告について

事務局一資料に沿って説明

資料20ページの「大山崎町子育て講座」は突発的な事情で実施されなかったのを削除する。

【質疑応答】

○委員一 21ページの防災体験教室「防災キャンプ」の定員が7名になっている。少ないのはなぜなのか。

→事務局 定員ではなく参加者が7名である。

○委員一 可能性として、10、11名ということはあるのか。

→事務局 参加希望が多ければもっと増やして実施したいと考えていた。

○委員一 費用対効果を考えると参加者が少ないのが気になる。広報などでどのように募集されたのか。

→事務局 平成26年度までは体験型事業として実施していたものを学習型にシフトした。年間4回のテーマを通して参加してもらうことで、当初の目的を達成するという趣旨で広報を使って募集をした。取り組み方などに工夫があっても良かったのかなと思う。

○委員一 内容を見ると趣旨はとて面白いのに参加人数が少ないのはもったいない。任意の参加でなく、学校のカリキュラムの中に組み込めないのか。

→事務局 現状では難しいかと思う。

○委員一 実際に宿泊もされたのか。

→事務局 公民館を使って宿泊をした。

○委員― サバイバル体験を小さい頃からするのはとてもいいことだと思う。参加人数が少ないので、もっと増やせないのかと思った。

→事務局 昨年度実施した防災体験教室だが、小中学校の児童生徒が年間を通して参加するもので、ジュニア・リーダー養成講習会（以下「ジュニア・リーダー」という）を学習型にして始めた。広報やホームページなどを活用してPRに努め、参加人数の面でも費用対効果の面でも上がるように目指したい。また、学校での取組については学校のカリキュラムもあり、取り組みにくい面がある。

○委員― 大山崎中の職場体験学習で埋蔵文化財整理の体験作業を行っているが、2年生4名と人数的に少ない理由は何か。

→事務局 文化財の業務の関係から4名に限定して受け入れた。

○委員― 保育所等は割合多く受け入れてもらえるが、文化財はたくさん的人数を受け入れてもらうことが難しい。大山崎町内は受け入れてもらえるところが少なく、長岡京市でもお願いしている。大山崎町内でもっと体験場所を広げていただければありがたい。

○委員― 鳥居前古墳周辺の開発が進んでいるようだが、これからどうなるのか。以前あった説明板もなくなっている。

→事務局 鳥居前古墳は、墳丘規模が50m程度で、古墳を守るために約4,000㎡の保存区域を設定している。その区域は開発区域から外れており、古墳の遺構については保護措置が執られているので古墳が壊れる心配はない。

小倉神社のところに説明板があるが、そのところが開発関連区域に入っている関係で一旦移動させているようである。保存区域は、国の史跡として一部が指定されており、見込みでは来年にほぼ全域が国の史跡に指定されていく予定である。

○委員― 42ページのスポーツ教室のところでソフトボールが年間10回で3名となっている。その下の剣道は1名で、3名や1名で実施できるのか。

→事務局 スポーツ教室はわくわくクラブで実施しており、スポーツ少年団の練習の時に一緒に教室を行っている、1名でも実施可能である。ほとんどがスポーツ少年団のある種目で、ない種目は中学校の部活をお願いしている。

⇒議題（4）については承認された。

（5）平成28年度社会教育委員会議関係事業計画（案）について

（6）平成28年度生涯学習課関係事業計画（案）について

事務局―資料に沿って説明

#### 【質疑応答】

○委員― ジュニア・リーダーの取組としてこれまでキャンプ、飯盒炊さんを続けてやっていたのが、去年はなぜ取り組めなかったのか。

→事務局 昭和50年頃に開始した事業で、長い歴史があった。平成に入っても指導する側と参加する側がバランスよく続いた。

ジュニア・リーダーの受講生が高校生以上になってからも指導者として関わっており「ゆうやけ」という青年リーダーを組織していた。その「ゆうやけ」が年間4～5回、春は飯盒炊さん、夏は一泊キャンプといった計画を立て活動していた。

この間、指導者側に立つ経験者や卒業生を大山崎町だけでなく長岡京市や町外に求めていかななくてはいけない実情がでてきた。また、参加者も少し右下がりになってきていた。そこで、学習体験型活動（平成27年度は防災体験教室）という新たな形で事業展開をしていきたいと考えた。

○委員一 これまでもジュニア・リーダーのOB・OGとわくわくクラブとの連携はあるのか。それとも全く関係ないのか。

→事務局 関係は特にないが、ジュニア・リーダーでの活動を踏襲したようなプログラムを実施されるだろうと認識している。

わくわくクラブの中には、各種イベントをするグループと青年部というグループの2つがある。その青年部が「ゆうやけ」として活動しており、教育委員会がジュニア・リーダーを復活しないのであれば自分たちでもう一度やりたいという意見が出て、わくわくクラブが昔のジュニア・リーダー養成講習会を実施するという事になったようである。

○委員一 我が子もるり溪かどこかでキャンプしていた。それから思うと随分活動が減ってきたように思う。

⇒議題（5）、（6）については承認された。

#### ◇ その他

事務局から以下の6点について報告

- ①ホストタウンについて
- ②平成28年度生涯学習課関連主要事業予定
- ③平成27年度大山崎町社会教育関係団体補助金交付実績
- ④第2期大山崎町教育振興基本計画
- ⑤平成28年度社会教育を推進するために（京都府教育委員会）
- ⑥乙訓社会教育委員等連絡協議会総会・研修会について

#### 【質疑応答】

○委員一 ホストタウンで継続審議という報告があったが、町としてハードルが高かったということなのか。

→事務局 ハードルが高いというわけではなく、一次申請を出した段階で取り組みの具体性や進捗状況があまり整理できていなかった。今回そうしたところを盛り込んで改めて提出する予定である。

○委員一 小学校の運動会は、ここ3、4年は春にやっていたと思うが、今年から秋に変わったのは、何か理由あるのか。

○委員一 元々は9月にやっていたが、気候のよい春に実施したものの、春でも熱中症対策が必要だった。春に実施すると1年生が入学してすぐということになり、発達段階を考えると難しい面があった。

教育課程の中で、運動会というのは学習指導要領に則った体育の集大成なのでしっかり取り組んだものにしたいという思いがある。

何年間かやってきた中で10月の中頃が子どもたちの活動にとって適当と判断したので変更した。

◇ 閉会

◆副委員長挨拶

- 暑い中、長時間にわたっての論議への謝辞
- 初めて聞くことが多いので質問していいものかどうかと迷いながら聞いていた。
- 社会教育・生涯学習はたくさんの内容を含んでいると今日の会議でわかった。